関東地方整備局 1/1

平成15年度道路環境センサスデータ一覧表

下表は、平成15年度道路環境センサスとして直 |轄国道で行った調査結果を調査地点別に表示したも のである。

騒音の新環境基準との比較は、全ての調査地点を 対象に行っているが、調査地点において環境基準の |類型指定がなされていない場合は、超過・非超過の |状況を()付きで表示した。

表示順位は、都府県支庁指定市別、路線番号別、 調査単位区間番号の順で並べた。

「 - 」は入力データが無いことを示す。

環境基準、要請限度超過・非超過状況 : 非超過 × : 超過 ():環境基準類型指定または 騒音規制区域指定の対象外

瀬戸規制と場合とは 環境基準:昼間70dB 夜間65dB 要請限度:昼間75dB 夜間70dB

車線数は、併設道路を含む。(12欄) 環境基準類型、騒音規制区域の指定状況は、

: 指定有り 空白: 指定無し とした。(13~14欄)

環境基準の類型指定延長は、上下車線別に求め、その合計を2で除した。(17欄) 環境対策設置延長は、上下車線別に設置された延長の合計となっている。(23~27欄) 遮音壁高さ(28欄)は測定地点における値のため、設置延長の有無にかかわらず「-」と表記される区間もある。

舗装種別は以下に示すとおり(22 欄) 密粒As : 密粒アスファルト 排水性As: 排水性アスファルト その他As: その他のアスファルト

コン/リート : コンクリート その他 : その他

沿道建物の状況は以下のとおり(31~32欄)

| 両側 : 両側に建物がある | 測定側: 測定側のみ建物がある 反対側: 測定点の反対側のみ建物がある 無 : 両側とも建物がない 不明 : 不明

・通常の場合は入力不要、新型遮音壁の場合は、 できるだけ詳しく種別を入力。 「新型遮音壁」は不可。(例)ASE遮音壁

対

策予定記

載

方法

調査種別番号(33欄)は以下のとおり

1:平成15年度実測 5:前年度データを補完

高さ : 四緒五人により整数とする。 高架裏面吸音板:小数点以下2桁を四捨五人 低騒音舗装:延長の考え方は右図参照。少数2桁を四捨五人 その他 : 小数点以下 2 桁を四捨五入

環境施設対設置延長(35~44欄)は以下のとおり記載する。

環境施設帯:小数点以下 2 桁を四捨五人 遮音壁 : 小数点以下 2 桁を四捨五人

路側線 低騒音舗装 40m 延長の考え方 中央線

50+40+30 延べ延長 延長 = -= 40m 車線数

事務所コード	路線名	地点名	No.			環境基準 要 超過・非超過 超過			艮度 超過	度 騒音レベル 図過 (dB)		測定地 の 指定状	点 測定位置 況 情報	区間	環境 基準の	評価	沿	道路条件			環境対策設置延長(km) <mark>現況 H15調査時</mark> [片側換算]				遮音	評価対象地域内環境対策設置延長(km) 現況 H15調査時 [片側換算]			併設道路	\$ %	沿道建物		測定データ			
			都道府 県支市 指定 ード	調 単 区 番 号	区間 内番号	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間 石 Leq	友間 基 Leq	環境 騒 基準 規 類型 区	音 測定点側 の車道 中央との 距離(m	延 長 (km)	類型指 定延長 (km)	延長 (km)	型 状 況	道路 敷幅 (m)	道路 形態	舗装種別	環境 施設 帯	遮音壁	架 低 騒音 舗装	新型音遊音	型 低層 調音 選音	室 高さ (m)	環境 施設 帯	遮音壁	架面籍	新型音 遮音	低層 遮音 壁	併設 道路 の 有無	道 測定 格 背後 反射 版 の有	物理物质	調査 種別 番号	実測 調査 年度
03	一般国道 5 0 号	群馬県桐生市広沢町2-3462	10000	1025	2					60	59 4	1	23.3	1.8	1.80	1.80	DID	53.8	盛土	密粒As	0	0 (0	0	0	-	0	0	0 0	0	0	無 -	無	無	5	2001